



「壽」などの字が入った「白磁陽刻長生文蓋物」朝鮮半島・19世紀前半

書道特別展

文字の美

柳宗悦がみつめたもの

会期 2021年10月2日(土)~11月14日(日)

会場 徳島県立文学書道館

1階 特別展示室、3階 書道美術常設展示室・収蔵展示室

開館時間 9:30~17:00 休館日 月曜日

観覧料 一般 520円(410円) / 高校・大学生360円(290円) / 小・中学生 260円(200円)
()内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日・秋休み期間中は無料。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催 徳島県立文学書道館 特別協力 日本民藝館

後援 徳島県教育委員会・徳島新聞社・NHK徳島放送局・四国放送



「梁武事仏碑 愍念(宋拓)」のうち「愍」中国・6世紀(部分)



「水の字に魚自在横木」日本・19世紀後半

関連イベント

講演会「書の工芸性 柳宗悦のいう文字の美」

日時 10月17日(日) 13:30~15:00 *先着100人(申込必要)

講師 松井 健(東京大学名誉教授)

*申込方法/はがき・FAX・メールのいずれかに「文字の美 講演会希望」と明記のうえ、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入し、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

展示解説 *申込不要、要観覧券。

日時 10月17日(日) 15:10~15:40

講師 月森 俊文(日本民藝館職員)

日時 10月26日(火)、11月3日(水・祝) 11:00~11:30

講師 松山 佳代(当館学芸員)

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
電話 088-625-7485 FAX 088-625-7540

ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>
メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp

民衆の暮らしの中で使われていたものに美を見だし、「民藝」と名付けて、その価値を広めた日本を代表する思想家・柳宗悦。柳はさまざまな「美しいもの」を蒐集し、その美の由縁や特質を解明していきました。

そして、柳の審美眼は書にも向けられ、独自の書論によって、個人を超えて模様化された書を「工芸的な文字」と呼び、その美しさを称賛しました。

本展では、日本民藝館が所蔵する柳が蒐集した拓本や経典、文字が施された絵画、陶磁器、木工品、染織品、板画家・棟方志功らの肉筆の書など86点を展示します。柳がみつめ、たたえた「文字の美」をご鑑賞ください。



柳宗悦 やなぎ・むねよし
1889～1961年

思想家。東京生まれ。学習院高等科卒業の頃に文芸雑誌「白樺」の創刊に参加。宗教哲学や西洋近代美術などに深い関心を持ち、東京帝国大学（現・東京大学）哲学科を卒業。その後、朝鮮陶磁器の美しさに魅了され、無名の職人が作る民衆の日常品の美に目を開かれた。日本各地の手仕事を調査・蒐集し、それら民衆的工芸品の美を称揚するために「民藝」の新語を作り、民藝運動を展開。1936年に東京・駒場に開設された日本民藝館の初代館長を務め、同館を拠点に数々の展覧会を開催し、各地の工芸調査や蒐集の旅、執筆活動などを行った。晩年には仏教の他力本願の思想に基づく独自の宗教美学を提唱した。文化功労者。



1



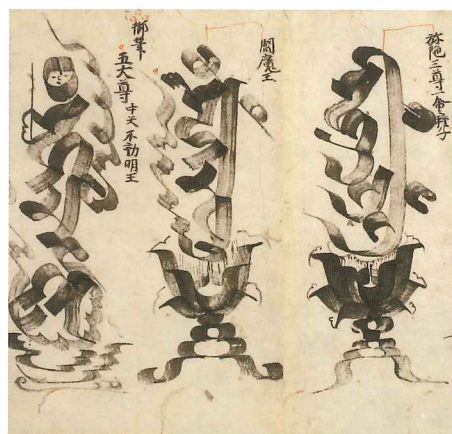
2



3



4



5



6

- 1 「緑釉線彫名号文野花立」日本・江戸時代
- 2 「文字図 信」朝鮮半島・19世紀（部分）
- 3 「茶地山市文革羽織」日本・江戸時代（部分）
- 4 「いっちゃん菊に寿文土瓶」日本・明治時代
- 5 「種子絵巻」日本・1603年（部分）
- 6 「吉祥紋編籠」朝鮮半島・19世紀

交通アクセス（JR徳島駅から）

徒歩（約15分）

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つめの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

バス

〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。
〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。

タクシー・自動車（約5分）

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つめの信号を右折して約300m。

駐車場 当館北側にあります(43台・大型バス2台)。

